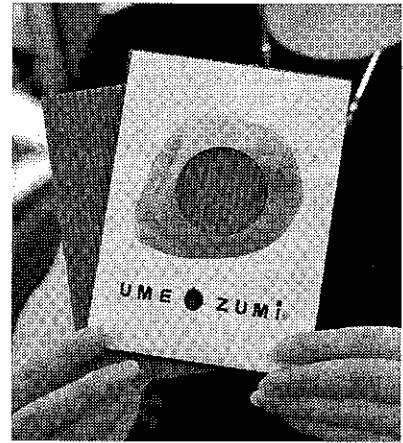


梅の種、炭にしてから再生紙に

梅炭再生紙を使って商品化された靴用消臭カード



梅の種を炭化した100%炭再生紙が話題を呼んでいる。梅の種は廃棄物として海洋投棄されていたものを利用、消臭、殺菌などの効果もあり、まさに一挙両得。地球環境がテーマとなった7月の主要国首脳会議（北海道洞爺湖サミット）でも、炭再生紙の製品が披露され注目された。

消臭・殺菌など効果

れた。

この炭再生紙は「梅炭再生紙」。山陽製紙（大阪府泉南市）が開発した。梅の名産地である和歌山県で収穫された「南高梅」の種が、食品加工業者によって廃棄物として海洋投棄され、環境問題化していることに着目。梅の種を回収し、備長炭

山陽製紙「求む提携企業」

の窯で炭化させ、古紙と水と炭で100%再生紙を製造した。

梅炭再生紙には、環境ホルモンの吸着に加え、防カビ、消臭、食品の鮮度保持などの効果が実験で確認されている。

6月に大阪で開催された主要国（G8）財務相会合で、出席者らに振舞われた日本酒のパッケージに採用されたことから注目された。これがきっかけとなって、エコ巾着袋として製品化されたものが、北海道洞爺湖サミットで各国政府関係者らに披露された。

炭再生紙の原材料としては梅のほか、ビールの製造過程で出る麦殻のほか、間伐材、コーヒーカーなどとも利用可能。麦殻を使った「麦炭再生紙」もすでに開発されている。

山陽製紙は現在、丸紅紙パルプ販売（東京都千代田区）などと共同で「炭再生紙プロジェクト」を実施しており、多方面で提携できるパートナー企業を募集している。

山陽製紙の原田六次郎社長は「環境問題を考えるなら、ぜひさまざまな製品と、炭再生紙を結びつけて考えてみてほしい。環境コラボレーションをともに実践できる企業を求めている」と呼びかけている。